

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4310710613
法人名	医療法人社団 福寿会
事業所名	グループホーム くすのき
訪問調査日	平成 19 年 12月 25 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	4310710613
法人名	医療法人社団 福寿会
事業所名	グループホーム くすのき
所在地	熊本県天草市楠浦町288番地9 (電 話) 0969-27-5402

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号ロフティ長安寺ビル402号		
訪問調査日	平成19年12月25日	評価確定日	平成20年1月5日

【情報提供票より】(19年12月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月14日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計		9 人	
職員数	7人	常勤	7 人,	非常勤	0人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	耐火木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	共益費4,800円、電気代実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 180 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 81 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 一陽会 天草セントラル病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リビングから海やゲートボール場などを見渡すことができ、近隣からも立ち寄り安い雰囲気作りに努力しているため、訪問者が多く明るく活気のあるホームとなっている。医療面でも病院併設のため入居者や家族に安心感を与えている。身体機能低下の入居者に対しても、粘り強い支援によって回復させた実績も評価できる。地域との交流面では養護学校や幼稚園の児童、老人会やボランティア、デイセンターの利用者などとの交流が図られている。行政から依頼を受けた介護教室の開催は、職員の寸劇により好評を得ており、行政との関係も良好である。今後はこうした地域活動を継続させることで、認知症ケアの拠点となることが期待される。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 緊急時の対応は研修でとりあげるほか、日々の業務の中でも連絡・報告の仕方等で改善を図っている。こうした研修や訓練の取り組み継続により、緊急対応力の向上が期待できる。また、事故やヒヤリハットの報告を検討し蓄積することによって、事故防止の事例や成果も上げている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティングで評価の意義や目的については職員全員に伝えられ、結果をもとに改善策を検討している。今後は職員一人ひとりの自己評価を推進することが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎の会議ではホームの状況報告を行ない、参加した区長や民生委員からの協力が得やすくなっている。地域での関係性の構築が図られている。また、会議参加者からホームの運営内容の評価や意見・地域からの要望を収集することで、地域密着型サービス事業者としての認識が深められていることが感じられる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 目安箱の設置やアンケートの実施、家族会での交流など、様々な機会を利用し意見を反映させるための取り組みを図っているものの、具体的な事例に結びついていない。得られた要望に対しては、早急な解決や取り組みを心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の入居者が多く、来訪者が立ち寄りやすい雰囲気作りに努めている。運営推進委員も頻繁に施設を訪れ、入居者への話しかけやホームの行事への積極的な参加・協力が得られている。子どもたちとの交流や地域の夏祭り・清掃などにも参加し、定期的な楽しみ行事として地域交流に発展しているものもある。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

☐ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(☐ ☐)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前からの理念を職員と共に見直し、地域の中でそれまでと同じように暮らすためのわかりやすい理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に掲げることで、いつでも目に付くようにしている。また、ミーティング時や業務の中で確認合っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方の訪問が多く、関係性も既にできている。近隣の園児や小学生の慰問や、地域の夏祭り・清掃にも参加している。養護学校児童との交流は入居者の楽しみともなっており、定期的な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義・目的をミーティングで全員に伝えている。評価結果をもとに改善策も検討し取り組んでいる。	☐	自己評価は、職員一人ひとりのふり返りとして取り組むことが望まれます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ホームの活動報告のほか、委員からの評価や意見・要望を収集し、ホーム運営に活用している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	11月には天草市地域包括センターの事業に応募して、介護教室を開催した。職員による寸劇で、認知症ケアについての啓発を行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「くすのきだより」を発行し、行事写真や日々の暮らしぶりを掲載報告している。面会時には状況を、また面会が少ない家族には電話で連絡もしている。預かり金は面会時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱やアンケート、家族同士の交流をとおしてなど、様々な形で意見を汲みとる働きかけをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員によるケアを心がけ、入居者にダメージが無いような配慮をしている。異動については、運営推進会議でも報告をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の内部研修会や外部の講習会・研修会等へも参加している。研修後も報告会を行い、資料と共に知識の共有化を図っている。また、日々のケアの場面でも、意見交換することで学び・成長できる仕組みが整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会では3ヶ月に1回研修会や勉強会が開催され、交流にも努めている。またグループホーム間の相互研修や職員交流・情報交換も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前に、職員が自宅訪問し、顔見知りの関係を築くように配慮している。またホーム内の見学もしてもらい、安心して入居してもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを共感するために、本人や家族からの話を聞くように努めており、料理の味付けや生活の知恵を教えてもらうことで、本人の役割も支援するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や発言、表情から思いを把握するよう努めている。意思表示が困難な方には、家族に本人の意向を代弁してもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望やケアマネージャーからの観察・情報等から、プランを作成している。日頃の入居者との話題から意向を把握し、カンファレンスで日々のケアに細かく反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを実施し、本人や家族の意向、担当職員の把握状況などから、介護計画の見直しを行っている。また状況に応じて随時見直しを行い、本人や家族の意見の反映を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型デイサービスの指定を受け、7月から利用者を受け入れている。家族からの要望があれば対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による2週間に1度の往診のほか、他所の病院受診の場合は家族と共に同行し、受診のための支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明し、看取り同意書をもらうようにしている。実際に重度化した場合や終末期を迎えた場合にも、家族や親族と話し合い、同意を十分に得られるよう努力している。	○	看取り指針に沿った終末期介護に関する職員研修の充実も期待されます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけの際は特に配慮し、プライバシーの保護については勉強会やマニュアルを設置し、徹底するよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の日課や流れの中で、入居者の希望に添えるよう可能な限り支援に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と相談しながら、偏らないよう工夫をしている。入居者にも役割を与え、楽しみながら食べてもらうための工夫をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順番を毎日変更し公平感もたせてムズな入浴支援が図られている。入浴拒否の方には言葉かけや、間を持たせ誘導に工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	午前中には本を読んだり、口腔体操、下肢筋力維持の体操などを時間を設けて行っている。また、生活場面では魚を捌いてもらうなどの調理、掃除・除草作業、テレビや新聞、カラオケなど、楽しみや役割のある生活支援がされている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外活動を取り入れ、車椅子やトイレを持参し、一緒に外出している。また、買い物や外食、花見・花火大会等気分転換の支援を図っている。	○	行事参加のための外出支援が中心となっていますが、散歩など屋外の生活を日課として取り入れる工夫やその体制が望まれます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や裏口の鍵をかけずドアセンサーを利用し、外出する方には必ず付き添うようにしている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。台風時等には、地元消防団の協力も得ることができるようになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で摂取状況を把握し、栄養士にはメニューの照会や栄養相談を行っている。口腔体操は日課として取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集まるホールには季節感を取り入れた装飾がされ、清潔感に配慮している。見慣れた海の風景や四季の眺めなど、今までの生活がそのまま続いているような感覚が持てるよう、工夫されている。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と話し合い、使い慣れた家具や生活用品が持ち込んである。各居室の換気や空調への配慮が見られる。	○	持ち込みが少なく、快適な居室空間が得られない入居者家族に対しては、継続的な働きかけが期待されます。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム くすのき
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	熊本県天草市楠浦町288番地9
記入者名 （管理者）	前田 賢一
記入日	平成 19 年 12 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	☐ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	長年住み慣れた地域の中で、自宅と同じ環境をしたく「安らぎを与える私の我が家」という理念をつくりあげている。 以前の理念を見直し、誰もが分かりやすい理念としている。		
2	☐ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げ、いつでも目に付くようにしている。 また、ミーティング時に理念に基づいたケアが提供できているか確認するようにしている。		
3	☐ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	訪問者にも掲示を見せながら説明し、理解してもらえようとしている。 また、広報誌・家族会等により事業計画・実施報告も行っている。	○	家族介護教室の中でも説明していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	☐ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物等の時に挨拶を通して気軽に立ち寄っていただくように声掛けを行っている。 近所の方から、野菜やお花を頂くこともある。	○	月1回程度で定期的にお茶の時間などを作って、気軽に来て世間話などできる機会をもちたい。
5	☐ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りに参加し、入居者の方もカラオケ大会に出場している。また、園児・小学生等が慰問に来てもらったり、定期的に養護学校の児童との交流会も実施している。	○	地域の清掃等に参加はしているが、もっと積極的に回数を増やして、施設としてボランティア活動をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室を開催し、地域の方々に認知症についての理解や接し方の勉強会を行っている。 また、地域の方より、認知症の相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的をミーティングで全員に伝え、全員で自己評価をしている。 評価結果をもとに、改善策を話し合い、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ほとんどのメンバーが参加して頂き、貴重な意見も頂き、サービス向上に努めている。 会議以外にも訪問して下さって、入居者の方と会話をもったりして頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点や問題が生じたときに、電話や訪問して相談している。	○	もっと積極的に施設で実施していることに対し、知ってもらい、市町村の意見も反映していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会にも参加し、他スタッフにも勉強会を行っているが、内容が難しい面もあり、回数をつまないと理解に乏しい面がある。 相談者には必要時、情報提供している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を用いて勉強会を実施し、スタッフの意識を高めている。 また、入浴時等に全身状態(皮膚の状態)の観察をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居(契約)時はもちろん、改訂時にも十分に時間をとって説明し、利用者や、ご家族様の不安等尋ねており、納得したうえで入居の契約を交わしている。	○	入居者もだんだん高齢化し、重度化している為、特に今後も家族と情報交換を密にし、主治医も含め話し合いながら、利用者・家族が納得いかれる方法を支援していきたいと考える。
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の会話の中で、利用者の意見等聴いている。また、不満や苦情があった場合には、早期に解決するように努力している。必要時、家族にも連絡し対応を一緒に考えている。	○	家族と共に同じ考えで介護していく方針であり、困ったときにはすぐに家族と相談しながら一番いい方法を模索しながら、今後もやっていきたい。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、特変の有無に関わらず状態報告を行っている。遠方の方には、電話にて報告したり、広報誌(月1回発行)を送付している。また、預かり金に関しても、定期的に台帳に確認印をもらっている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置したり、アンケートを実施しているが、苦情が少ないのでもっと言ってもらえる雰囲気不足しているかも考える。	○	家族会まで行かないで、家族同士の交流会も始めたばかりであり、もっと交流を深め苦情も出るようにしたい。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやアンケート・個人面談等を行い、意見を聞くようにし、不満や苦情を少なくする努力はしている。	○	若い職員が多く、やりがいをもって仕事に望んでほしいので、職員とのコミュニケーションには時間をかけたいと考えている。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や突発的な体調不良時にもすぐに勤務変更できるように、調整しており、スタッフの協力も良い。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各職員が受け持ちの入居者を持っており、異動や離職はなるべく避けられるように、問題点は早期解決するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外に関わらず、学習会や研修会には参加するようにしてる。また、研修会終了後には、報告会をし、報告書にも記入し自由に閲覧できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会があり、3ヶ月に1回定期的に研修会・勉強会の開催があっている。主に、管理者や計画作成担当者が担当。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃より悩み等ある場合は、十分に話を聴き早期に解決できるようにしている。また、事業所内での交流会等行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が頻繁にGHに来られており、職員の業務実績を確認したり報告しており、向上心を持って働ける環境を作っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの相談は少なく、家族からの相談、それも現在他施設や病院に入院している方がほとんどであり、在宅で急を要する場合には、他施設を紹介したり、一人で抱え込まないように話し、相談にのっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、家族の話をよく聴き、これまでの苦悩を受け止め、一番困っていることなど問題点を明らかにし、それに対する対応を一緒に考え、場合によっては他の施設を紹介している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、話をよく聴き、必要に応じた支援かを見極め、緊急性や必要ならば、サービス機関を紹介している。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり開始することなく、入居(契約)前、職員も本人を訪れ、顔見知りの環境を築き、GHにも来て頂き、少しでもスムーズにサービスを利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できるだけ本人の全てを理解する為に、本人や家族の話をよく聞き、これまでの生活史を知るように努力している。その上で、できることを一生懸命に行い、毎日を有意義に過ごしてもらえるようにしている。	○	本人と施設だけでなく、家族も一緒になって本人を支え、一緒に喜び、悲しみ分かち合っていきたい。誕生会や施設の行事等にも家族と一緒に過ごしたい。
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ施設での様子を理解して頂きたく、広報誌を発行したり、電話したり、面会時には必ず近況報告したり、困っている点は、一緒に考えてもらい、家族の意向も大事にしている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに報告し、理解してもらっている。また、本人が言葉では言えないが感謝されていることも伝えたりしている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	GH内にいながら、また、散歩等時に馴染みの知人・友人に会うことができ、今でも関係は継続している。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	地元の方々が多く、昔からの知り合いで昔から仲が悪い人もいて、トラブルになることがあるが、全員ホールで過ごす時間が多く、職員も必ず、会話の中に入るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関への入院した方でも、職員が交代で面会に行ったり、洗濯物の支援を行ったりしている。	○	契約終了後も、家族から相談できるように声かけを行いたい。気軽に立ち寄りやすい関係を作って行きたい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなく、表情や普段の会話の中で真意を把握するように努めている。また、ご家族の意向や代弁者にもなってもらっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、ご家族からの情報を提供してもらっている。また、一番重要視している部分であり、入居後も本人・ご家族また担当のケアマネより情報の収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できるだけ在宅時と変わらないリズムを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、担当者会議にて家族も含めスタッフも出席しているが、あまり意見がでにくい面もあり、日々の小さな問題はカンファレンスで対策を立てるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族の意見も変わるので、状態に応じて一部変更したり、全部立て直したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録(チェック表も含め)は、毎日スタッフ全員が閲覧できるようにし、情報の共有化を図っている。また、モニタリングに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本年度、共用型のデイサービスの指定を受け、在宅での認知症の利用者にサービス提供の場を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の委員にも、民生委員やボランティアの会長(区長さんを兼任)さんになってもらっており、アドバイスを受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の理美容室を使えなくなった利用者には(歩行困難等)移動美容室サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただくことにより、施設の活動をよく理解していただき、アドバイスも受けることができ、いい協力関係ができています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常はかかりつけ医に2週間に1回の診察を受けている。また、他の病院や他科受診時必要時は家族によく説明し、同行するようにしている。家族が同行できない場合は、診察結果を必ず報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の進行において、日常生活に支障をきたす場合は、専門医の診察を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤で1名配置されており、勤務外でも24時間連絡できる体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時より家族の意向を踏まえ、医療機関とも相談し、早期退院できるよう努めている。職員が交替でほぼ毎日面会に出かけている。GHも空けて待っていきことが多い。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療連携加算をとっており、説明し同意を得ている。また、本人の状況変化に応じ、家族・施設・医師と話し合いを何度も持ち、意見の統一を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族・医師・施設スタッフと何度も話し合いを持つようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時以外で変わったことはないが、入院時は職員が交替で面会に行き、環境の変化によるダメージを少なくするように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関するプライバシーに対しての勉強会やマニュアルも作成はしている。入居時に、必ず家族へも説明し、許可を得ている。昔からの知り合いの方が地域に多く、個人のことを尋ねられることも多く、返事に困ることもある。	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事の献立や、行事や活動等の嗜好を聞いているが、「ほかの人と同じで…」と言われることも多く、様々な種類を提供し、そこから選んでもらったり、表出しやすいように工夫している。	
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、急に「○○に行きたい」と言われても職員がいなかったりで待ってもらったり、延期してもらうこともいけないと思いながら、してしまっている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意思がはっきり言える方は希望通りにしている。また、行事等に参加する場合、本人が希望される時は化粧をしたりおしゃれや身だしなみを支援している。	
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者に聞きながら立てているが、ほとんど刺身・寿司等魚料理を希望されるが、献立が偏るため、様々なメニューを提供し、好評・不評を受け止め次に生かしている。また、味付け等も尋ねたり行ってもらっている。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の好き嫌いを把握し、別メニューでの対応をしたりする事もある。また、喫煙される方はいないが、飲酒に関しては希望者に対して、行事等には少量ではあるが提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用により、大体は分かっているの、尿意の訴えのない方でも、時間をみて誘導している。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の好きな方、嫌いな方が両極端であり、実行表を見ながら、前日入浴できてない方を優先的に入浴していただいている。また、以前入浴の順番にて不平不満があったため、毎日変えることで公平にしている。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	現在ほとんどの利用者の生活リズムは整っており、夜間も良眠されている。また、日中ではホールの畳上で休まれる利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る方には、魚をさばいてもらったり、調理したり職員と一緒にしている。また、掃除をしたり、草むしりをしてもらったり、自発的な意欲を持ってもらうよう努めている。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、小額を持たれている。また、買い物の際は、自分で支払われる方もいる。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外活動も出来るだけ取り入れ、買い物・外食・花見・ドライブ・花火大会等にて季節感を感じたり、気分転換を図っている。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前は遠出もしていたが、最近は利用者の方もトイレが気になったりで、消極的になられている。	○	家族と一緒に日帰り旅行も計画したいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話をしたりしている。また、年に数回家族宛に書く機会を設けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間は気にせず、いつでも面会できるようにしている。また、久しぶりに会って会話が途切れれたり、本人の状態が悪くて(精神的に)対応できない場合は、職員が間をとりもつようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へのアンケートを実施し、理解力をみたり、また研修を行い、全体で取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけていない。また、外に出かけようとされる利用者に対しては、一緒に散歩したりして必ず付き添うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、ほとんどの利用者がホールで過ごす時間が多く、把握している。居室にて過ごされる場合でも時間ごとに様子を見に行くようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じ、危険性を認識し、物品も普通においていいか、届かないところに置か変えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハット必ず、記録するようにしている。また、記録するようなことがあったら、その対策をたて、実施するようしている。家族への報告も行い、一緒に考えてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応はマニュアル化し、電話の横に貼り付け、すぐに見られるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練・通報訓練・消火訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族とは常に、情報交換を行っており、職員だけで考えるのではなく、家族にも一緒に対応策を考えてもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っており、常勤で看護師が一人配置されており、些細なことでも報告し、医療につなげている。24時間連絡できる体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、処方箋のコピーをとっており、また、薬の本の完備し、自分で調べる習慣がつくようにもしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多く、食事(食物繊維の多く含む)にも気をつけ、水分補給も不足にならない様にしている。それでも排泄がない方には、看護師のもと下剤や浣腸を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。出来ないときはうがい、それでも出来ないときは最後に水を飲んでもらっている。夕食後は特に、食物が残っていないことを確認するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表にて、把握するようにしている。また、個人に合わせて量や形態(刻み・ミキサー食等)も変えている。時々、栄養士にも見てもらっている。水分でむせりがある方にはトロミをつけたりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、常に閲覧できるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などを消毒したり、毎日食材の買い物に行き、なるべく早く使い切るようにしている。また、面会者の方から、個人的にお菓子などの差し入れがあった場合は、本人と毎日チェックするようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口が分かりづらいので、案内板を設置している。玄関の周りにプランターなど置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中ほとんど過ごされるホールには、壁に季節感を感じさせるような飾り付けをしたり、手作りの作品を展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの横に畳があり、カーテンで仕切られ、疲れたとき横になってもらったり、冬は掘りごたつの中で仲のいい利用者同士が数人で会話の場にもなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、または面会時、出来るだけ家から家具等持ち込んでもらえるように声掛けをしているが、なかなか持ち込みは少ない。	○	若いころの写真や家族の写真も持参してもらったり、お孫さんの作品や、自分で作った作品等も飾ってあげたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、天気がいい日は窓を開け換気を行っている。また、温度計を設置したり、利用者に尋ねたり、居室に関しては、個人により体感温度が違うので個人に合わせた温度設定をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下には手すりが付いており、車椅子使用者、歩行可能な方も使用してもらっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には、本人が分かるように写真を貼っている。また、トイレはセンサーで電気がつくようになっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには季節の花を植えていたり、テラスには、椅子を置いて景色を眺めたりしている。近所の方もよく通られるので会話したり、気軽に立ち寄っていただけるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体医院の医師・看護師との連携を密にし、利用者・家族の方にも安心したケア（医療も含め）が提供できているのではないかと思います。また、午前中は、リハビリ体操・レクリエーションを取り入れ、入居者と共に楽しみ有意義な時間を過ごしている。地元の入居者が多く、地域の方々や隣接するデイケアセンターの利用者とも交流が多く図れている。養護学校の児童や、ボランティア（園児や老人会等）の交流会を多く取り入れることにより、入居者の楽しみを支援できていると思っております。